時事新報は日本國中唯一の毎日刊行新聞紙なり

時事新報

第二千三百八十四號
明治廿二年八月十七日　土曜日
舊暦巳丑七月廿一日（乙丑）
日出午前五時二分　日入午後六時二十七分
月出午後十時十七分　月入午前十時五十八分
滿潮午前九時二十三分　午後九時四十三分
（西暦一千八百八十九年）

時事新報

左の一說は近頃歸朝したる社友高橋義雄氏が佛國巴里府滯留中に起草したるものなり

西尊東卑　高橋義雄

今試に世界東西の國々を對比して一枚の取組番附を作るものあらば東の日本を西の何國に比較す可きや萬口一喙直に英國を以てするとならん四面海を環らして近く大陸と相對するは兩國酷だ相似たり同じく北半球に在りて一年平均六十度內外の溫度あるは兩國酷だ相似たり建國の古くして歷史上の事實の相類するは兩國酷だ相似たり即ち近時の西洋人が日本を目して東洋の英國と稱する所以ならんかなれども是等は單に外形上の類似酷肖にして其人心氣風に至りては兩國互に相似ざるのみか寧ろ極端の相違ありと申すも可ならん今英人の氣風を摘んで申せば冷淡にして物に動せず剛直と頑固とを等分に調合して一種の合金性を爲し之を撓ませども屈す可らず大きな靴を穿ちて大丈夫な衣服を着け武骨な身體に油濃き食物をツメ込んで思ひ込みたる筋道をノソリノソリと牛進する其氣根の強さと實に言語同斷にして從來英人に見込まれたる國は恰も蛇に見込まれたるが如く早晚其呑む所と爲り英人と戰爭する者は何程敵を殺しても後からノソノソ進み來りて其氣根に負けるを常とす一般保守の氣風に富みて事に當りて用心深く二三度考へて一言を出し現在善事名案と知りつゝも横から叩き竪から鍊へ、叩きて鍊へて萬々曲りの出ぬ處に至りて始て之を採用するの習なれば其事を發言企圖する人々も亦氣根強くして何度失敗しても失望するとなく今年負けたら又明年、明年成らざれば明後年と氣長く之に執着して大雷頭上に落來るも一度握りたる者は決して決して之を放すとなし試に年々英國の國會議院に提出する議案を見よ愛蘭自治案、上院廢止案、議員宣誓廢止案、英佛海峽隧道案及彼の亡妻の姉妹と結婚を非とする議案の如き年々歲々同樣に出現して又同樣に失敗すれども發案者は相替らず平氣にして結局輿論の成熟して其目的を遂する迄は氣長く辛抱するの覺悟なるが如し國家の大議論に關しても其人氣の落ち附きたると實に前述の如くなれば其風俗習慣等は百歲守りて改むるとを願はず蘇格蘭の兵隊は田舍染たる縞の脚袢に親讓りの遺風を示しウエールスは掌大の邦なれども土人その邦語を改めざるが如き自ら信ずると厚くして自ら守ると甚だ堅く一徹頑固堅忍の一義を執りて恬として動かざる者にして世之れを John Bullism とは云ふなり或る人の說にジョン ブリズムの行はるゝ社會には絕えて反動と稱する者なし云々とありしが電氣燈の明るきを見て知らざる顏して瓦斯燈のみを用ひ甚だしきは蠟燭燈明の今尙家に耀くやうの世の中には如何さま反動の起りやうもなきことならん之を要するに英國は地理氣候等の外形に於ては頗る日本に似たれども其人心氣風等に至りては大に相異なるの實あるを見る可きなり

日本人の氣風は之れに異なり人情淚出やかにして驚奇喜事の態を存し風向に舞ひ上る凧の如く動もすれば輿に乘ずるの癖ありて西洋にて云々と云へば是れは妙なりとて直に學び學者が何々と語りたりと云へば夫れも尤なりとて實行するは勿論、府會に云々の悶着あれば忽ち地方に傳染して縣會も亦同樣の悶着を試み東京の學校生徒がストライキ類似の狂言を演じたりと云へば地方にも日ならずして同狂言の外題が現はれ尙ほ甚だしきは都會に決鬪申込みの沙汰ありし間もなく各地方に其流行を見るが如き自から人氣の動靜する有樣を卜す可きなり又我々文壇の士が時に一場の想像說を書きて試に之を世間に示せば間もなく之を實試する者あるのみか時としては其實試の急なるに過ぎて發案者自身も其意外なるに驚き事に因りては傍に當惑することなきに非ず即ち我が人心水平の物に感じて鋭敏なるの事實にして每度我々の實驗する所なり凡そ感情の鋭敏なる者は刺激に逢ふて動搖する每に進退共に度に過ぎて其平準を得がたきこと物理天然の約束にして從來日本社會には時々反動の變相を呈し本來の進路に歸復するの間に多少の時日を空うして國步に障害を與へたると決して少しと爲ざるなり按ずるに王政維新の後廢藩脫刀を始として日新文明說の流行あり舊來の習俗を目するに舊弊の二字を以てして悉く之を破壞し去りたる其反動は神風連の騷動と爲り諸藩不平家の暴擧と爲りて文明急進の勢も亦自から沮喪したることなりしが明治十年西南戰爭の落着してより日新文明說が今度は自由民權說として政治社會を刺激したる其反動は儒教主義の流行と爲り士氣奇妙に振ふて刀劍その價を增し琴棋茶の湯骨董古物が塵世奔走の士の間に重んぜられたる其反正の進動は例の通りに通り過ぎたるのみならず當時外交政治の手加減に於て偏に西洋人を優禮したる等の意味もありたれば舞踏演劇洋服束髮上流下流相率ゐて唯何となく西洋を尊み東洋を卑みて所謂西尊東卑の勢を成すことゝは爲れり是に於てか漸く其反動を呈せんとするは日本社會の常にして近來世の士人中には往々その非なるを唱へて非西尊東卑說を珍重するの景色あるもの〻如く今日は正に其風向きの變り目ありとも申す可きか從來の例に因れば矯むる者も矯めらるゝ者と共に結局極端に走るの傾あるが故に此反動の勢も止まる所に止まらずして或は其平準點を過ぐることあらん誠に苦々しき次第にして其進退急變の間に國步全體の進路を妨ぐるは勿論、國家理財の點より見るも多少の損失なきを得ず例へば社會的の反動に因りて一時學政の方向を變じ學校の敎科書敎授法に幾分の變更を見ることあらんか此變更に因りて全國學生の間に空費する時と金とは如何なる所きや集めて之を積りたらば中々莫大の者ならん況んや其反動に伴ふものは單に學政等に止まらず社會の人事を網羅して被服裝飾の微に及ぶに於てをや其前後の變更に因りて國の財力を消耗すること決して鮮少ならざるなり見ろ前車の覆るを見て其後單に用心するは世上識者の任にして其用心如何に因りて人事の危險損害を防ぐことを得べく或は全く防ぎ得ざるも之を輕減することを得るものなり目下佛國政治界の士人がナポレオン三世の前例に鑑みてブーランジエー將軍に用心するの深切なるが如き事異なりと雖ども其禍を未萌に防がんとするの用心は同一にして今日我國の識者諸氏も社會反動の毒害を避忌するの念あらんか鄭重平氣にして今の世論の趣く所を考へ是非得失を解剖して明に其守る可き所を示し反動狂進の軌道に向て一種の齒止めを設置すること正に其責任なる可きなり

（以下次號）

官報

○文部省告示第十四號

石川縣縣立石川縣工業學校

右ハ明治二十二年（一月）法律第一號徵兵令第十一條ニ依リ中學校ノ學科程度ト同等以上ノモノト認ム

明治廿二年八月十六日　文部大臣子爵榎本武揚

○遞信省告示第百六十三號

佛蘭西國ノ保護ニ屬スル「コモロー」諸嶋萬國郵便聯合ニ加入ス

明治廿二年八月十六日　遞信大臣伯爵後藤象二郎

○遞信省告示第百六十四號

今般北海道渡嶋國檜山郡江差港鷗嶋ニ建設シタル燈臺ニ於テ不動白色ノ燈光（無等）ヲ設ケ明治二十二年九月十五日以後每夜日沒ヨリ日出マデ點火ス

一該燈臺ノ位置ハ水路部出版第十號ノ海圖ニ據レハ大約北緯四十一度五十二分五十五秒ニシテ東經百四十度六分五十二秒ニ當ル

一該燈臺ハ木造四角形白色ニシテ基礎ヨリ燈火マデ高サ一丈三尺五寸ナリ

一該燈火ハ眞方位南十七度四十五分東ヨリ北七十二度十五分東マデ二百七十度間ヲ照輝ス

但右方位ハ燈臺ヨリ測定ス

一該燈火ハ水面ヨリ高サ十丈四尺其光達距離ハ晴天ノ夜六海里トス

明治廿二年八月十六日　遞信大臣伯爵後藤象二郎

○罰俸譴責

新潟縣東蒲原郡長　桑野禮行

新潟縣東蒲原郡下綿村共有地山林公賣處分ニ關シ粗漏ノ取扱ヲ爲シタル段不都合ニ付罰俸一月分ノ十分一ヲ科ス

非職宮城縣仙臺區長　小笠原幹

仙臺區長在職中區役所管理ニ係ル區費金ノ殘餘ヲ區會ノ決議ヲ經ス專斷ヲ以テ處理シタル段不都合ニ付譴責ス

宮城縣宮城郡長　十文字信介

仙臺區長奉職中區役所管理ニ係ル區費金ノ殘餘ヲ區會ノ決議ヲ經ス專斷ヲ以テ處理シタル段不都合ニ付譴責ス

（以上八月十三日內閣）

雜報

○條約改正の談判　は此暑中にも休みなく引續き協議中なるは英國にして大隈外務大臣は既に數回英公使と外務省に於て面談せり談判の模樣は固より聞くことを得ざれども兎に角英國は他の歐洲諸國と違ひ東洋全體に對して最も多くの關係を有するが故に隨てはなしも込み入り米獨の如く簡單に運び兼る場合もあるよし殊に獨國あり伊太利あり又西班牙なり都て歐洲大陸の國々にして東洋政略あれば每も英國の蹤に倣ふ氣味合もあるが故今回の談判も自ら他の諸國に向て先例を示すの氣味ありて英國が容易に斷言せざる邊ありと云ふ偖て國別の談判とあるからには他は皆今度の新條約に同意し獨り英國の之を聽かざる事もある可し又之

を承諾せざる時
りては終に現行
る事もあらんと
の密接なる場合
へを來すは必定
り威張るの不利
○東歐事件
爲なく位を太子
も同樣國外流寓
が表向きは私用
ードに入りてよ
厚遇を受けミッ
シヨラン王が國
盡する所にして
陰かに約束した
ふ所ありしが共
正の間柄直りた
る事實となれり
なかるべし若し
請求によるにあ
ものなりと云ふ
○昨今の米況
第に米商に向ひ
意天候共に其勢
し上して六七の
て此上進を顯し
て局外の者迄み
ては却て左迄の
何れかと云へば
頃の好順氣あん
に倍數の輸入あ
然增加して目下
增加の見込あれ
も今日の天氣と
しか消え亡せた
先づ中分無き出
も覺束なかるべ
る一方には今も
未だ容易に安心
今少しく輸入あ
れ僅かに旅を挽
津あるべしとは
五萬石以上を受
は目下二十七八
既に同氏の所有
あることあるに
は實屋の苦心一
にも及ぶことあ
動を見ることが
潤澤あるが如
では到底貨物の
は思ひも寄らぬ
主張し負けず
氣も見えされ
る所なれば借
機あるべし因
に至る深川
れを前年同時の